

## 「JENESYS2.0」中国大学生訪日団第24陣

### 参加者の感想（抜粋）

○ 今回の訪問で最も印象深かったのは日本の学生の学習スタイルである。理論と実践を組み合わせ、細かく、専門的に、技能を重視した授業内容が行われている。淑徳大学の訪問では、学生達は高齢者・児童・障害者等の分野ごとに分かれ、まず理論面の知識や技能を学び、その後、付属施設で実践的な実習を行っていることを知った。こうして学んだ知識を実践に結びつけ、実践する中で理論を検証し、発展させることができるので、理論の強化が実践に活かされて実用的だと思う。福岡県立大学の訪問でも同様の状況が見られた。介護実習室では、十数人の学生が先生を囲んで講義を聞いており、理論を学びながら、実際に車椅子の操作を体験していた。このような技能を重視した授業スタイルはとてもよいと思う。中国でも参考にすべきである。

帰国後、周りの学生達に伝えたいのは、日本人がお客を見送る時に手を振ってくれること、互いに譲り合うこと、日本の白い雲と青い空、自然な状態の樹木や草花、ハイテク、日本人が生活を楽しんでいること、食生活のバランスがよいこと、細やかであること等である。日本で学び、見て感じたものすべてを、友人、同級生、家族達に伝えたい。そして中日両国民の相互理解を深め、双方の友好に貢献したい。

中日両国民の友好交流の機会が増え、両国の社会福祉事業が健全に発展するとよいと思う。また、私達大学生にこのような機会を与えてくれた中日双方の関係者に感謝している。中日友好が永遠に続きますように！

○ 最も印象深いのは、日本の介護保険制度である。日本は「少子高齢化」の典型であり、老後の保障面で中国も学ぶべきところが多い。東京の金子充先生や結城康博先生、そして北九州市の担当者による日本の高齢者問題に関する説明では、いずれも介護保険制度のことを強調していた。社会福祉制度ではあるが、原則40歳以上は必ず加入しなければならず、65歳以降に保障が受けられるとのことである。また、淑徳共生苑は、人にやさしい施設で、体が不自由な人のハイテクな特殊浴槽設備やカフェ、「月影堂（宗教活動を行うホール）」が設けられ、スタッフも熱心で細やかなので、高齢者は苑内で快適な老後を送ることができる。

帰国後は先生や同級生に日本の高齢者・障害者・児童等の社会福祉政策について伝えたい。そして、私達社会福祉を学ぶ学生が更に視野を広げ、中国の社会保障制度を見直す際に、日本の経験を参考にして、より優れた社会保障を行えるようにしたい。

また、中国の老人ホームは公営、民営を問わず、監督が不十分で問題が起きているので、日本の状況を伝え、問題を解決していきたいと思う。

それから、日本の授業スタイルやカリキュラム、学生達の学習状況などについても周りに伝え、教室を出て、より多くの実践的な経験を積み、理論を実践に応用できるよう

にしたい。

○ 訪問前、日本についての理解は、メディアの報道や歴史・文化等の政治的に偏った内容によるところが多かった。今回日本を訪れ、日本に対する見方が大きく変わった。

まず、仕事面では、日本人のまじめな仕事ぶりに驚いた。些細なことからも仕事に対する真摯な態度や客を尊重する気持ちが伺われ、学ぶべきだと思った。

学術面では、日本の学生との交流や大学教授のセミナーを通じて、日本の教育は細かく専門が分かれ、学生も興味を持って熱心に学び、理論と実情を結びつけた学習が行われている。日本の学生は将来のキャリアプランも明確なので、学ぶ際にも目的意識と情熱をもって取り組むため、よりよい効果をもたらしている。

今回の訪問では多くの収穫があった。帰国後は同級生と共有し、共に経験を積み、成長していきたい。また、日本を理解することで、更に日本人と付き合いやすくなり、友情が築けると思う。

○ 宿泊施設の洋室も和室も細部において感動した。部屋は大きくないが、温かみを感じた。旅の疲れを癒してくれる和室の壁の絵やライトグリーンソファ。万一の時のためにベッドの枕元に置かれた懐中電灯等。

また、障害者によるパフォーマンスも印象深かった。初めて障害者が大きな舞台上で自分と観客のためにパフォーマンスを繰り広げるのを見た。司会者が障害者達と交流する際、一緒にリズムをとりながらジャンプしていたが、このように寄り添うことは障害者にとってとても大きな励みになると思った。一階の展示ブースでは、障害者手作りの精巧な工芸品に感心した。

帰国後は、より多くの人々が障害者を思いやり、社会福祉の真の役割が発揮されるよう、もっと一生懸命社会福祉の勉強に取り組んでいきたい。

○ 最も印象深かったのは淑徳共生苑と北九州市障害者芸術祭での障害者のパフォーマンスである。

今回、社会福祉分団の一員として交流訪問を行い、中日両国の若者同士の交流を促進し、友好を深めた。訪問を通じ、日本に対する理解、特に社会福祉と社会保障の面での理解を深めることができた。

少子高齢化は世界が直面している共通の問題であり、今後解決しなければならない課題である。社会福祉面の交流や話し合いを行うことは、相互学習のよい方法であり、出発点だと言える。日本は介護保険や社会福祉の面ですでに多くの経験を蓄積しており、発展途上にある中国の社会保障にとって参考にすべきものがたくさんある。

視野が広がり、新しい知識を習得し、中日両国の若者が交流を深める機会を与えてくれた日本にとっても感謝している。

○ 今回の訪問で最も印象深かったのは、高齢者福祉制度とその関連施設である。日本は高齢化が非常に進んだ国であり、高齢者ケアの面で多くの措置が講じられている。中国では今、少しずつ高齢化社会が進行しており、高齢者福祉制度において社会保険システムが整えられている。しかし、日本の制度は参考にすべきところが多いと思う。淑徳共生苑訪問の際、温かい大きな家のように感じた。高齢者にはそれぞれの個室があり、太陽の光が十分に注ぎ、見晴らしが良く、皆、楽しそうだった。最上階には信仰心の厚い高齢者向けに宗教活動の行われる部屋もある。昼食は高齢者と同じものを頂いた。スタッフの指導の下、高齢者は食事前に簡単な体操を行っており、細かい部分でも高齢者への配慮がなされている。昼食は、肉や魚と野菜とがバランスよく組み合わせられ、高齢者が健康を維持するのに必要な栄養を十分に摂取できるものだった。老人ホームの設備全般・サービス共に整っていると見える。中国の老人ホームも基本的には高齢者に快適な生活環境を提供しているが、老人ホームにボランティアとして行く場合に注意すべきことを周りの人に伝えることで、更にすばらしいものにしていきたい。

○ 今回の訪問で最も印象深かったのは、淑徳共生苑の見学である。このような老人ホームがあるとは思っていなかった。ハイテク技術を用いながらも「家」の雰囲気を作り出し、専門のスタッフが高齢者の介護を行う。日本人はとても細やかで、細部まで配慮がなされている。例えば、淑徳共生苑の壁には「光触媒」が用いられ、薬や高齢者独特の臭いを心地よい香りに変えている。床は高齢者が倒れた時にひどい怪我をしないよう柔らかいものを使用している。更に高齢者の習慣に合わせ、心の安らぎを得られるよう宗教行事を行うホールまで設けられ、細かいところまで行き届いた環境設計がなされている。また、スタッフが介護しやすいよう工夫されているため効率もよい。高齢者がこのような待遇を受けられるのなら安心だと思う。

帰国後は、清潔な街、特徴ある建物、熱心なスタッフ、静かな交通、おいしい日本料理、自然を貴ぶ伝統文化等、日本のすばらしさを家族や友人に伝えると共に、学内新聞に自分の専門に関する日本の状況や参考にすべきところを公表したい。

○ 8日間の訪問は非常に印象深いものであり、日本に対するイメージが変わった。まず、日本の街がとても清潔だということに驚いた。これが日本の第一印象。子供の頃からの習慣だろうが、これは日本人の自制心や忍耐力を表すものだと思う。次に、日本人が親切で礼儀正しいことも印象に残った。食事の前の挨拶やお客を見送る時、そして日常的な人との接し方にも、「礼儀の国」の魅力が現れている。訪問中、私も謙虚さや礼儀正しさ、そして場にふさわしい言動を学んだ。そして、TEPIA 先端技術館や北九州市障害者芸術祭の見学、二つの大学での訪問・交流では、日本の科学技術や芸術、教育について理解を深めることができた。特に、障害者のダンスとピアノ演奏はすばらしく、

障害者の強さに感動し、「この世に不可能なことはない」と痛感した。意欲を持ち、思いきって取り組みれば、何でも実現できるのだ。福祉教育の面では、学ぶべきところがとても多いことを感じた。福祉専攻の学生として、また実践活動に参加した経験からも、日本の福祉は中国よりも優れていると思う。今回の訪問を通じ、日本の福祉に対して認識を新たにするとともに、中国の社会福祉の発展について自分なりの考えを持つことができた。「学術や授業には専門範囲がある」。今回の訪問を終え、帰国したら、今回の活動が今後の専門の勉強において大いに役立つこと、そしてこの専門を学べば多くの人を助けられることを、自信を持って語りたい。

○ 今回の中日友好交流活動は短かったがすばらしく、とても印象深いものとなった。まず交通面では、日本はとても発達しており、自動車やバスは軽快に走り、排気ガスや塵のない環境に優しいものとなっている。秩序正しく、歩行者も自動車も信号を見て交通ルールを守っており、信号無視や横入りなどは見られない。このような秩序のある清潔な交通環境はとてもすばらしいと思うので、帰国したら皆に伝えたい。次に、日本の食べ物だが、今まで食べた中で最も栄養バランスのよい食事だった。高タンパクの肉類にビタミンや繊維を多く含む野菜・果物。日本人が長寿だという理由がわかった。

そして、日本の文化。門司港はヨーロッパ産業革命時代の様式建物を残す風情ある浜辺、異国情緒あふれる港である。太宰府天満宮は日本の伝統文化を色濃く伝えており、ちょうど七五三の季節だったので、和服を着たかわいい子供達が歩いている姿が見られた。また、手を清めてから参拝する方法も神聖だと思う。幸運なことに、日本の結婚式を見ることもできた。中国や西洋と異なり、花嫁は顔を隠すことなく、列の中程に立ち、側には花嫁のために赤い唐傘をさす人がいた。赤い傘の下の花嫁はとても美しかった。日本の伝統文化がしっかり伝えられていることも印象深かった。

○ 今回の大学生訪日交流が間もなく終わろうとしている。8日間は瞬く間に過ぎ、時間は短かったが、日本の新しいものをたくさん知ることができた。また、日本の社会福祉のすばらしいところもたくさん学ぶことができた。

日本の第一印象として、非常に街がきれいだと思った。街にはゴミ箱もゴミもなく、往来する自動車は新車のように、トラックのタイヤさえ全く汚れていない。また、日本人の細やかさや綿密さを間近で感じることもできた。見学の前には具体的なスケジュールが配布され、詳しい説明があったし、移動の際には私達の荷物をきちんと並べ、滞りなく行程が進むようにしてくれた。その熱心な仕事ぶりにはとても感心した。日本側スタッフに心から感謝の言葉を述べたいと思う。

この数日間、セミナー等を通じて日本の社会福祉制度の各方面について詳しく理解することができた。また、私達の専門であるソーシャルワークと関係のある老人ホーム、大学、TEPIA 先端技術館等も見学したが、最も感銘を受けたのは、淑徳共生苑だった。

ここは環境がすばらしく、大きな建物でありながら、草花も多く、高齢者に適した住環境だと思う。また、人に優しい施設で、高齢者のニーズにマッチしており、介護スタッフも責任を持って細やかな世話をしている。高齢者が健康的で幸せな暮らしをしていて、心温まるものを感じた。8日間は瞬く間に過ぎたが、見聞きし感じたものは簡単には言い尽くせない。でも、ここで学んだすばらしいものは、帰国後、周りの友達や家族に伝え、学んだ専門知識は先生や同級生と共有したい。

日本も中国も高齢化問題に直面しているので、互いに学び合い、力を合わせて問題に取り組み、よい福祉をもたらすことができればと思う。また、今回の交流活動の様子を中国の若者に紹介することで、より多くの若者が今後中日交流に関わってくれることを願っている。

○ 日本は整然とした秩序正しい国であり、日本人もとてもフレンドリーでまじめに仕事をすると感じた。日本は現代的な国であり、科学技術のレベルは、ある面において世界を牽引する地位にある。日本の日常面での科学技術の発明アイデアは学ぶべきものがある。また、すばらしい伝統文化がしっかりと残されている国であり、日本人もこのすばらしい文化の影響で、非常に礼儀正しく謙虚だと思った。

ソーシャルワークを専攻する学生として、周りの人達に日本の社会福祉の成果をありのままに伝え、共に日本のこの分野の経験を学びたい。

○ 今回の訪問で最も印象深かったのは、淑徳共生苑と淑徳大学、福岡県立大学の訪問である。淑徳共生苑は設備がとても整っており、細部まで行き届いた配慮がなされている。例えば、温かみのある色を用いた室内、曲がり角部分を丸くなめらかにした階段の手すり等、各所において真摯に取り組む姿勢が感じられた。二つの大学の訪問では、日本の学生と交流した時、彼らが社会福祉分野のさまざまな活動に取り組んでおり、大学の中にも社会福祉事業の関連施設がいくつか作られていることを知った。

帰国後は、日本の社会福祉について周りに伝え、こうした情報によって、両国が互いに学び合い、共に発展していければと思う。

○ 淑徳共生苑の見学では、日本の高齢者の実際の生活を知ることができた。金子充先生のセミナーでは、日本の社会福祉関連の法律や政策を知り、大いに感銘を受けた。高齢化社会は中国と日本が共に直面している社会問題であり、両国が互いに学びあうべき分野である。

北九州市のふれあいフェスタ 2015 では、民間の社会団体がたくさん参加していることに驚いた。特にLGBTの参加者はとても勇気があり、すごいと思った。多くの人がLGBTの人達の生活や価値観を理解し、その存在を受け入れるようになるだろう。日本の社会福祉面の施策は比較的整っているが、状況に応じた処理方法が必要とのことであり、中

国の社会保障においても、より適切な施策をすることが大切だと感じた。

中日両国の民間交流や社会福祉面の交流が進めば、両国民の相互理解も更に深まっていくと思う。

○ 訪問で印象深かったのは、北九州市のふれあいフェスタ 2015 で LGBT をテーマとするブースがあったことだ。通訳を通じて出展者の具体的な状況や LGBT だという事実に向き合っているかを知った。その中で語られた「人というのは他人が想像できるような生き方をする必要はない。他の人に迷惑をかけなければ、自分らしく生きてよいのだ」という言葉はとても印象深かった。LGBT の人達は普段、さまざまなプレッシャーを受けていると思う。でも、この出展者は非常に勇気があり、積極的に生きており、私達も学ぶべきだと思った。時代の移り変わりで、LGBT のような問題が注目されるようになってきた。私達も彼らに寄り添い、助けるべきだと感じた。

また、福岡県立大学では「不登校・ひきこもり」の生徒を対象とした学生ボランティアによる教室を見学した。私達もこうした人達、そして時代の変遷によって新しく出て来た問題に、もっと関心を持つことが必要だと思う。

日本のボランティア活動には、学生、職員、高齢者等、さまざまな年齢層の人達が参加しており、参加者の数も非常に多い。中国でもさまざまな年齢層の人達が参加するよう呼びかけたい。

○ 訪日前は、あまり日本人との接点はなかった。今回、日本人の思いやりや友情、まじめに取り組む姿勢を感じる事ができた。日本の学生との交流では、問題に対する考え方等で共感できた一方、異なる文化・社会で育ったことによる違いもあり、意見交換をし、率直な交流ができた。

日本の礼儀正しい文化、日本人の謙虚な性格、「他人に迷惑をかけない」精神は印象的だった。

北九州市のボランティア活動に関するブリーフによると、市側がボランティア活動しやすい仕組みを積極的に作っており、青少年に、社会と接し、社会人としてのスキルを身につける機会を提供しているだけでなく、高齢者の健康づくりにも役立っているとのことだった。

東京都プリプレス・トッパン（株）では、障害者のために細やかな設計がなされていることに感銘を受けた。すべての人がよりよい生活ができるよう努力し、それぞれの人格を認めるという優しさに感動した。

○ 来日前、日本のイメージと言えば電気製品と化粧品だったが、日本に来て感心したのは、日本人が細やかでまじめで、礼儀正しく、歴史・文化や福祉を重視しているということだ。日本の社会福祉関連の政策と活動内容は非常に素晴らしい。

ボランティアは一滴の水のようなもので、力は小さいが、集まれば大きな川になる。私は今までイベントの際のボランティアばかりやっていたが、東洋大学のボランティア組織に感銘を受けた。今後はもっと多くの場で手助けが必要な人のために活動したい。そして、障害者の生活や気持ちをより多くの人に理解してもらい、皆が気持ちよく暮らせる社会を作りたい。

○ とても印象深かったのは、日本人が何をするにもまじめで、手を抜くことがなく、とても細やかで誠実で、社会人としての資質が非常に高いということだ。中国人は学ぶべきだと思う。

帰国後は、日本人がまじめに仕事をし、社会道徳を守ることなどを周りの人に伝えたい。今、中国に欠けているものは信用なので、今回の体験を周りに伝え、改善できるよう努力したい。

○ 来日前に私が参加していたボランティア活動は主にスポーツイベントや大型の展示会だったが、日本の学生や行政担当者によるボランティア活動の紹介を聞き、とても啓発を受けた。今後は環境保護関係のボランティア活動に参加し、組織化にも取り組みたい。まずは自分の身の回りから始め、コミュニティに密着した活動をしたい。子供に寄り添う活動や特殊教育学校でのボランティアに参加することで、思いやりや責任感を持てるようになると思う。大切なのは、専攻と関係のあるボランティア活動に参加すること。そうすれば、社会に入る際の基礎固めができる。

○ 今回の活動で最も印象深かったのは大学での交流である。同年代の日本人と話した内容はとても記憶に残った。思いやりがあってフレンドリー。ボランティア精神に富み、積極的に活動の参加や組織化をしていて、とても活発。社会的責任感を備えた優秀な学生達だった。彼らの笑顔のおかげで、日本という国に好感を持つことができた。国と国との関係は複雑だが、人と人との付き合いはシンプルだ。互いに尊重し合い、思いやりがあれば、相手のすばらしさを見つけて友達になれる。人はとにかく物事を決めつけがちだが、一つの国を理解しようと思ったら、その国の人、特に若い人と深く付き合うことが必要だと思う。国際交流においては、誰もがすべて国の代表なのだ。日本の学生はすばらしいと思う。帰国したら、日本の各大学での交流体験を友達と共有し、日本人がフレンドリーだということを伝えたい。また、日本の教育はとても成功していると思う。私は今回の訪問で強く感じたことは、日本人がルールを守り、人のことを思いやること、すばらしい品性が常識的な行動に表れているということだ。これは中国が学ぶべきであり、私達も公共道徳の意識を高め、他人に迷惑をかけないようにすべきだと思う。

今回の訪問で、より客観的にリアルな日本を感じ、自分の目を見て、いろいろ発見し、日本という国の良さを理解することができた。いつかまた日本を訪れ、より多くの風土

や人情に触れたい。

○ 訪日前に、日本人はまじめで礼儀正しいということは聞いていたが、今回、それを大いに感じる事ができた。例えば、お客を見送る時、日本人はずっと手を振っていたし、常に笑顔で対応してくれた。

ボランティア活動は、日本では幅広く普及しており、多くはコミュニティや学校が開いている。だが、中国では自分で探さなければならないことがほとんどで、あまり普及していない。この点について、中国のコミュニティや大学が日本を見習えば、中日両国のボランティア活動は今後更に素晴らしいものになると思う。

○ 今回の訪問で最も印象深かったのは、北九州市障害者芸術祭での視覚障害者のピアノ演奏である。障害者でありながら強い意志を持って生きていることに感動すると同時に、日本の行政による障害者を保護・奨励する事業、そして市民の障害者に対する思いやりを見ることができた。これには本当に感動した。

帰国後に周りの人達へ伝えたいことはたくさんある。例えば、直接飲むことができる水道水、心地よい温泉文化、素晴らしい浅草寺、好感の持てる日本の学生達。

今の気持ちは簡単な言葉では言い尽くせない。自分の知らない日本はまだたくさんあるので、いつかまた日本を訪れ、もっと深く知りたいと思う。